

定期健診が
あなたの健康
を守ります

健診センターだより

編集発行
公益財団法人 とくしま未来健康づくり
機構(徳島県総合健診センター)
公益財団法人 日本対がん協会徳島支部
公益財団法人 結核予防会徳島支部
〒770-0042 徳島市蔵本町1丁目10番地3
TEL(088)633-2266(代) FAX(088)633-1811

子宮頸がん - HPV併用検診の有用性 -

公益財団法人とくしま未来健康づくり機構 診療部長 猪野 博保



1. 子宮頸がん

子宮癌のうち子宮頸部に発生する癌で外子宮口にできることが多い。罹患率は20歳代後半から40歳前後まで増加し、70歳代後半から再び増加している(図1)。さらに近年50歳未満の子宮頸がんの死亡率の上昇が目立っている(図2)。最近子宮頸がんの95~99.9%がヒトパピローマウイルス(HPV)によるといわれており、定期的に検診を受けることが早期発見につながる。子宮頸部癌死亡率の上昇の原因は、日本の子宮癌検診受診率は20%強で諸外国に比べ、著しく低いことにある(図3)。子宮頸がん検診の精度を上げるためには細胞診とHPV検査の併用検診が推奨され、ともに陰性の場合は健診間隔を3年に延長できるメリットがある(図4)。では実際のどの位の人がHPVに感染していると考えられているのでしょうか(図5)。

HPV感染の一部はワクチンによる予防が可能で、日本では平成21年(2009)10月にワクチン接種が認可された。10代前半の接種でHPV感染率を低下させ、子宮頸癌の発生を7割減らす効果がある(図6)。

図2

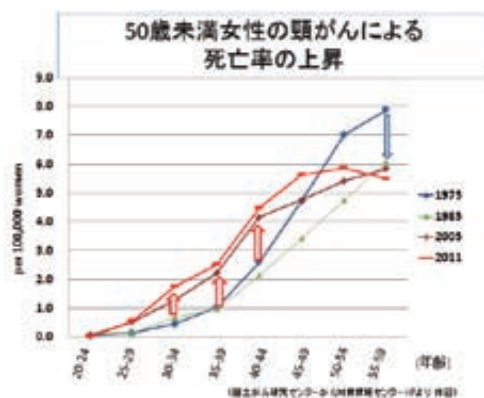


図3

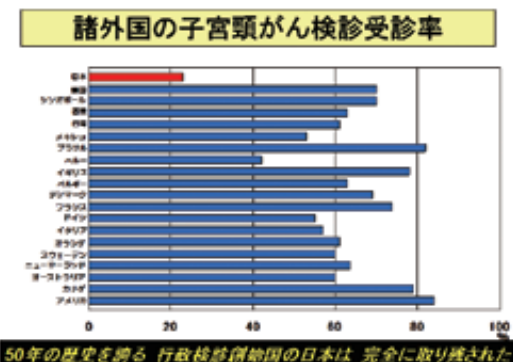


図1



図4

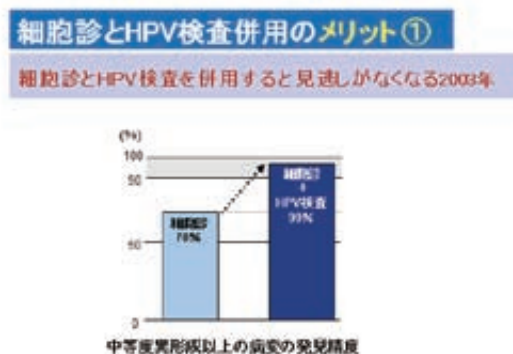
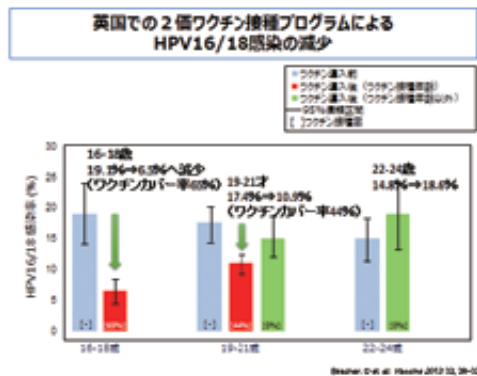


図5



図6



2. HPVとは？

ヒトパピローマウイルス (Human papillomavirus: HPV) というウイルスです。HPVには100以上のタイプがあります。そのうちハイリスク型HPVというものが子宮頸がんの原因になると考えられています。ローリスク型HPVは尖圭コンジローマ(外陰部にできるいぼ)などの原因になっています。

3. HPVの感染経路は？

多くは性交渉により感染し、過去に1度でも性交渉の経験がある人ならば誰でも感染の可能性があると考えられています。実際、若年層の半数近くの女性が何らかのタイプのHPVに感染していると言われています。

4. 検査で『HPV感染』陽性と診断されたら？

ほとんどは一過性で免疫力により自然に消失しますが、まれに持続感染することがあり、子宮頸がんへの進行の危険性が高まります。HPV検査を行い陽性判定が出た場合、ウイルスが消失するまでの間6～12ヶ月ごとにHPV検査により確認することをお奨めします。

5. ハイリスク型HPVに感染すると必ず子宮頸がんになりますか？

ほとんどが一過性の感染で自然消失します。子宮頸がんの原因はハイリスク型の持続感染で、持続感染がある場合は平均で10年以上の長い期間を経て子宮頸がんになる可能性があります。必ずしも全員がなるわけではありません。

※ハイリスク型HPVには16、18、31、33、35、52、58などがあげられます。

現在の所、子宮頸がんの人で16型が関係している人が約50%、18型が関係している人が約20%と言われております。

6. HPV検査とは？

通常の検診(細胞診)と同じで子宮の入口の細胞を使ってHPV-DNA検査を行います。HPVに感染しているかどうかを調べるスクリーニング検査と、どの型のHPVに感染しているかを調べるタイピング解析があります。

7. 細胞診検査とは？

採取した細胞を顕微鏡で観察して、上皮が正常か、がんになる可能性があるかどうか、あるいは既にがんになっているかどうかを調べる検査です。

8. HPV検査と細胞診検査の両方を受ける必要がありますか？

細胞診とHPV検査の併用によって検診の精度がほぼ100%になります。また将来子宮がんになる危険性があるかどうかを知るひとつの指標になるので、併用検査をお奨めします。

9. 細胞診・HPV検査がともに陰性でした。どのくらいの期間、検査しなくてもいいですか？

米国の子宮頸がん検診のガイドラインでは、両検査とも陰性の場合、次回検診は3年後となっています。しかし、検査後に感染することも考えられますので定期的な検診は必要です。

10. HPVワクチン

HPVワクチンのお話ですが、このワクチンは将来がんになる可能性のあるHPVのタイプのうち16型と18型に効くものです。若い女性の子宮頸がんは、16型と18型が多く、両方を合わせると20代で90%、30代で75%との推測があります。

さてもし11歳～12歳位の女性全員にHPV予防ワクチンを投与したら約70%の割合で子宮がんが減るとの事です。その他のタイプの感染は予防できないため、例えワクチンを接種したとしても子宮頸がん検診は必要です。

しかし、日本はHPVワクチンの接種に関しても後進国で、WHO(世界保健機構)、FIGO(国際産婦人科連合)から、HPVワクチンを強力に推奨するよう働きかけられています。

わが町の健康づくり

上板町保健師 村田 幸子

上板町は徳島市より西北に約 20km、吉野川北岸平野のほぼ中央に位置しています。南は吉野川を境に石井町に、北は阿讃山脈を隔てて香川県東かがわ市と接しています。総面積 34.51km²、人口 12,473 人、高齢化率 30.9%（平成 27 年 12 月 31 日現在、住民基本台帳調査値）です。



健康づくり事業には、保健師 4 名と、管理栄養士 2 名の計 6 名で取り組んでいます。

健康づくりのスタート、母子保健事業では、妊娠届出時の保健指導および地区担当保健師による新生児訪問の実施、乳幼児健診での保健指導の他、個別相談体制を整え一人ひとりの発達を見守りながら対応をしています。また、子育て中のお母さんが気軽に集まれるように「子育てひろば」を町の保育所と連携して開催しています。町内の子育てグループの紹介も行い地域ぐるみの子育て支援を行っています。さらに支援が必要な場合では、保育所、幼稚園、小中学



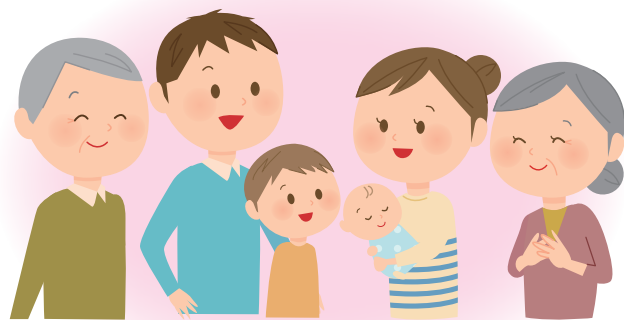
校、関係機関と連携した相談体制をとっています。

健康増進事業では、40 歳以上の方を対象に町内の運動施設を利用した「集団健康教室」を開催し、運動への動機付け、及び継続に繋げています。また、上板町食生活改善推進員の育成と活動を支援し、野菜摂取量増加の活動や親子料理教室、高血圧予防、肥満予防などの調理実習を行い、普及啓発を行っています。



当町では集団がん検診や特定健康診査受診後、指導が必要な方には訪問指導を実施し重症化予防につとめています。集団がん検診受診後の精密検査の受診率は約 90%と良好ですが、そのスタートとなる集団がん検診の受診率は乳がん、子宮頸がん、肺がん検診では約 18%、胃がん、大腸がん検診では約 10%と必ずしも十分ではありません。今後、受診率を高めるために実施方法の改善や広報を工夫し受診しやすい体制づくりが必要です。

これからも、町民の皆さまと顔の見える関係性を保ちながら、具体的・直接的な働きかけを行い、一人ひとりの主体的な健康づくりを支援していきたいと思っています。



平成27年度 健康を考える県民のつどい



9月はがん征圧月間として、全国各地でさまざまな行事が展開されました。徳島県では「健康を考える県民のつどい」が、徳島県、公益財団法人とくしま未来健康づくり機構、全国健康保険協会徳島支部、徳島県教育委員会の共催により、去る9月3日、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）において関係団体、市町村保健担当者、婦人会等約750人の参加を得て盛大に開催されました。

表彰式典では、主催者のあいさつの後、健康づくり推進活動

に功労のあった個人9名と4団体に徳島県知事表彰が贈られ、続いて、当機構からは、住民の健康づくりと結核並びにがん予防対策事業の推進に貢献のあった個人5名と1団体に理事長表彰を贈呈しました。また、よい歯の高齢者として307名に徳島県歯科医師会長表彰が贈呈されました。

式典終了後、徳島大学病院整形外科講師浜田大輔氏から「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）－健康長寿のための理解と予防－」というテーマで講演がありました。

その後、いけだスポーツクラブクラブマネージャー大西真知子氏から「健康づくりでまちづくり～いけだスポーツクラブの取組～」、藍住町食生活改善推進協議会「藍愛グループ」顧問森智恵子氏から「藍住町ヘルスマイトのあゆみ」というテーマで、それぞれ日ごろの活動について事例発表が行われました。

本日のつどいの参加を機会に、皆様が健康で快適な生活の確保を図るため、一人ひとりが健康の重要性を認識し「自分の健康は自分で守る」という自覚をお持ちいただくことで「健康を考える県民のつどい」の成果があったものと考えております。

受賞者紹介 (敬称略)

★健康づくり推進活動
功労者知事表彰

(個人)
山 西 一 子
和 田 澄 子
岡 崎 郁 子
丸 岡 重 代 子
丸 岡 重 代 子
松 尾 久 美 子
糸 谷 久 美 子
岡 田 喜 美 子
杉 脇 喜 美 子

(団体)
美馬市食生活改善推進協議会

(企業部門)
徳島県教育印刷株式会社
四国電力株式会社徳島支店
森田技研工業株式会社

★がん並びに結核予防対策
功労者理事長表彰

(個人)
森 史 子
山 田 景 子
村 田 幸 子
東 城 恭 子
山 本 美 恵
(団体)
阿波市婦人団体連合会

RFL (リレー・フォー・ライフ) 徳島2015 ～東新町商店街としおかぜ公園の2カ所で開催～

リレー・フォー・ライフとは1985年にアメリカワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会の医師が始めたのが最初で、がん患者やがんを克服した人たち、また、その家族、友人、医師などが十数人ずつのチームを組み、リレー形式で24時間歩き続けることで、がんと闘う人たちの勇気を称え、社会支援を呼びかけるイベントです。

徳島県では、徳島市の東新町商店街と小松島市としおかぜ公園の2カ所での開催となりました。2週にわたり天候にも恵まれ、リレーウォーク等イベントも無事開催されました。

特に、「リレー・フォー・ライフ小松島」においては、初回から参加している当機構チームも職員が24時間交代でタスキをリレーし、無事に24時間歩き続けることが出来ました。

リレー・フォー・ライフはたくさんのボランティアの方々の協力が必要です。

是非、リレー・フォー・ライフの趣旨をご理解いただき、ご参加くださいますようお願いいたします。



結核予防複十字シール運動 キャンペーン

9月24日から30日の結核予防週間中に、全国各地で複十字シール運動キャンペーンが実施されました。

この運動は、複十字シールの意義や目的を広く一般に伝え、結核予防の普及啓発を目的として全国一斉に行われます。当機構でも「健康を考える県民のつどい」開催時に、あわぎんホールにおいて、徳島県と徳島県婦人団体連合会(全国結核予防婦人団体連絡協議会徳島県支部)の協力を得てパンフレットを配布し、結核検診の受診と複十字シール募金運動への協力を呼びかけました。

このような活動を通じて、忘れがちになっている結核に関心を持っていただければと考えております。



全国一斉複十字シール運動開始 都道府県知事表敬訪問

結核のない世界をつくるための募金活動、複十字シール運動が、結核予防会各県支部が各都道府県知事を表敬訪問し全国一斉にスタートしました。

徳島県でも、公益財団法人とくしま未来健康づくり機構(結核予防会徳島県支部)と一般財団法人徳島県婦人団体連合会(全国結核予防婦人団体連絡協議会徳島県支部)とが共同で徳島県知事を訪問し、複十字シール運動の意義、目的をご理解いただき、各自治体から結核予防思想について広く一般に伝え一層の普及を図っていただくよう運動への協力をお願いしました。



がん検診率向上プロジェクトに参加し 学園祭において無料肺がん検診を実施

NPO法人AWAがん対策募金の主催で「がん検診率向上プロジェクト」が実施されました。このプロジェクトは若者から大切な家族や親しい方にあてて、がん検診を勧めるメッセージカードを書いてもらい、それを手渡ししたり送ることでがん検診に関心を持ってもらうというものです。

当機構でも、若い年代の方にもがんに関心を持っていただくとともに、がん検診の受診率の向上のため、文理大学、四国大学の学園祭においてパンフレットの配布と無料肺がん検診を行いました。

自分のため、家族のため、年に1度はがん検診を受けましょう。



～複十字シール運動～

複十字シール運動は、世界中の結核を撲滅し、肺がんその他の胸部の病気をなくすため、世界約80カ国で行われている募金活動です。日本の複十字シール運動は昭和27年にスタートし、今日まで着実な成果をあげています。こうした活動は皆様の貴重な援助や寄付に支えられています。

複十字シール運動を通じて結核や胸の病気に関心を持っていただき、募金へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度 募金額 3,016,928円



お知らせ

ホームページについて

当機構のホームページにも健康に関する情報を掲載していますので是非、アクセスしてみてください。

ホームページ

URL <http://www.toku-souken.ne.jp/>



健診センター地図

当センターにお越しの方は、駐車場より赤の矢印の方向にお進みください。(近道になります)

※実線 — : 駐車場までの自動車進路、
点線 : 徒歩進路

バス

徳島バス・市営バス：中央病院前下車
徒歩1分

J R

JR蔵本駅下車 徒歩3分

駐車場案内

